

心に罅線が無くなれば、恐怖も無くなる

酒生文弥

生死一如

「死のうは一定（みな死ぬのは決まっている）」。信長の座右です。Living is aging, sometimes ailing, and eventually dying (生=老・病・死). なので、Living is dying (生死一如) 生と死は合わせ鏡です。武漢ウイルス (Covit19) は世界を暗雲に覆い、この瞬間にも罹患して苦しむ人、苦しみながら亡くなる人が爆発的に増えています。日本では毎年 100 万人余りが、たいがいは何らかの病気で死去します (生まれて来るのが 8 千万くらいなのが問題ですが)。それがコロナで 20 万人ほど増えるとしたら大きな問題ですが、最悪のケースでもそんなものです。世界では毎年 7000 万人余りが死亡 (生まれて来るのが 1 億人くらいなのが問題かも) しますが、最悪 1 億人くらいがコロナ死亡となるかも知れません。それでもスペイン風邪の 3 分の 1 程度で、100 年前に体験済みの天災 (?) に過ぎません。アメリカは 30 万人の犠牲を推定し、第 2 次大戦の戦死なみと騒いでいますが、戦争という人為が天災に並ぶ愚行であることが痛感されるだけです。死は生の帰着であり、それ自体恐れることはありません。

免疫療法

「死ぬんじゃないかと心配です」。私は 2001 年から免疫療法懇談会 (WIS) というがんの免疫療法をやっていて、がん患者さんのカウンセリングをよくしています。「はい、私たちはもちろん死にます。でも、免疫が強ければ天寿を全うできるんです」と言うやりとりから入ります。免疫は「いのちの力」そのものです。生を完うする根源の力です。免疫は、細胞の自衛隊 (専守防衛) で、司令官 (樹状細胞) が敵 (非自己) か味方 (自己) かを識別し、戦略と戦術を立てて兵士 (B 細胞、C 細胞、マクロファージなど) に無線 (サイトカインという科学物質) で命令し、指揮統率して異物を排除します。がんを征圧することを主目的にいろいろな免疫療法 (BS48、HITV、BNCT、NIL-PIT 等々) が開発されていますが、一番の鍵は、兵隊数を増やすだけでなく、司令官たる樹状細胞 (DC) を鍛え上げる (敏速に友敵認識させる) ことにあります。ワクチンとは、仮想敵国に対して徹底した事前練兵を行うことです。

ジェンナーは、搾乳婦が天然痘にかからないことから初めてワクチンを開発しました。牛はルーマニア語 (ラテン語) で vacca と言いますが、vaccin は牛由来の薬の意味で、ドイツ語読みでワクチンとなります。異物 (非自己) を抗原 (闘う相手) とし、これに徹底抗戦する細胞軍隊を抗体と呼びます。敵を「認知」して「排除」させる練兵場がワクチンとなるわけです。

免疫の根源はひかりあるいのちに

免疫は自分自身に備わっています。健全な食生活・運動・睡眠で常備軍は十分強力です (だから健康に生活できています)。薬剤やサプリは訓練機器に過ぎず、自分のいのちを護る究極の力は免疫力なのです。病気は「ヤマイ (気が止むこと)」です。気の持ち様は、免疫賦活の、

つまり「いのちの力」発揮の最大の梃です。「健全な肉体は健全な精神に宿る」が正しい因果です。法悦に満ちた心の在り方を「自然法爾（じねんほうに）」と言いますが、大宇宙・大自然の無量のひかりといのちに感謝して身を任せ、報恩の想いで明るく生きることです。

宇宙万物の根元は光であることは物理学の常識ですが、光で使った空気（二酸化炭素）を居る空気（酸素）に換えてくれているのは植物、樹木（キ）です。木は、酸素・フィトンチトン・マイナスイオン・キノコを発して、文字通り「元気（ヤム前の元のキ）」の源です。武漢ウイルスは、軍備競争と環境破壊が大いに関わって登場したモンスターだと思います。

地球から私たちの「文明」や「国家主義」が根底から問われている試練。それがコロナパンデミックという天与の試練です。ひとりひとりが、隣人と手を携え合って、ひかりに満ちたいのちを温め合う。これこそ最強力なコロナ対策です。

「自分」とは死別しない

志村けんさんの逝去は、ファンで同世代である私にも大きな衝撃でした。お会いすることはなくても涙が流れました。加藤茶さんが「あいつは自分が死んだことにきづいていない」と述べましたが、「自分は自分とは別れません」。誕生前と同様、没後も「自分は自分」です。愛する他人と死別することは四苦八苦の究極ですが、「自分は死なない」ので死を恐れる必要はありません（死を求めることは殺人同様エゴイズムですが）。朝この世にまためざめたなら、一期一会を生かさされきって日々新たに生を愉しめれば良いのです。

マスクをするのも、手洗い消毒をするのも、3蜜を避けるのも、自分を感染から守るためではなく、自分を感染者と仮定して他人を感染から護る行為です。まず有縁（袖すり合った他人）を助けよう、という菩薩道こそ最高のパンデミック対策です。マスク・消毒液・必需品などを買い占めるのは究極のエゴイズムであり、地上地獄に至る道です。確かにマスクが1人に2枚あれば、洗って半永久的に使えるのですから、余分がある方はすぐ縁者に差上げましょう！

心無罣礙故・無有恐怖

量子力学の世界そのものである『般若心経』で一番好きな句です。「心に罣線（区別する思考）が無くなるから、恐怖もなくなる」。「すべてひとつにぶっ続き」が the Universe の意味ですが、私たちは（イヴが知恵の木の実を食べてから？）ものごとを区別する、それも勝手に差をつけて区別する（=差別）ことが辞められません。切り取って学ぶ science で蓄積した「知識」は確かに「神（=宇宙・自然）」の摂理を辿る「文明」の道具です。しかし、般若（プラジュニャー）は、「智慧」と訳される通り、お「日」様で明るく暖かくライトアップした「智」であり、彗星のように箒で掃き清めた心「慧」なのです。般若の心で知識を使えば、心に罣線が無くなり（生死一如、あらゆる差別心からの解放）、恐怖から解放されるのです。「我」は「手」と「矛」から成り、おのれというエゴを護るために手に刃物を持っているという字義です。「寄らばきるぞ」も相手を恐れるあまりでしょうが、刃物はやくぎの「ドス」にも外科医の「メス」にも使えます。「慈悲」、一切を慈しみ悲しみを共にする心と行いの輪があなたから広がっていくとき、パンデミックも終息に着くことでしょう。

Peace starts with me!